



「言葉の力」を中核とした学校づくり⑪

「教師の力」を高める

◆ 教師に必要な主な力には、「学習指導力」、「生活指導力・進路指導力」、「外部との連携・折衝力」、「学校運営力・組織貢献力」の四つがあります。いずれも「言葉の力」が基盤となります。

◆ 「学習指導力」と「生活指導力・進路指導力」は、これまでも各種の研修を通して育成されてきました。「外部との連携・折衝力」と「学校運営力・組織貢献力」については、教育課題の多様化・複雑化に伴い、より一層重要になっています。

◆ 「外部との連携・折衝力」と「学校運営力・組織貢献力」を実際の職務で捉えると、「聞くこと」、「話すこと」、「書くこと」の三つに分類できます。

➤ 「聞くこと」については、「話の要旨を的確に把握して、その内容を理解する」、「話し手の主張や気持ちだけでなく、言外の思いや真意を感じ取る」等です。

➤ 「話すこと」では、「自分の考えを明確にして、説得力をもって論理的に伝える」、「相手や場面、目的に応じて伝えるべき内容を分かりやすく話す」等です。

➤ 「書くこと」は、「読み手が理解しやすい論理的文章を書く」、「会議や研修会などで、分かりやすく説明するための資料を作成する」等です。

◆ こうした職務を遂行する力を、参加者を能動的な立場におく討議法やロールプレイを用いた研修、日々のOJTを通して、計画的に育成することが必要です。



学問と経験

実業家 渋沢栄一

学問は一種の経験であり、経験はまた一種の学問である。老人も青年も、この辺の消息を理解するを要す。

出典：「渋沢栄一 一日一言 人間力を高める言葉」（致知出版社）

※ 物事の真理を問うて学ぶ、人生は学問の連続であると思います。